

先生に添削してもらおう！

読者参加型 論作文誌上添削ゼミナール

読者からのテーマに沿った投稿原稿を基に、鈴木先生が添削をして
くれる当連載。あなたの論作文をぜひ診てもらおう！



添削・監修講師
鈴木一男先生
Kazuo Suzuki

東京都立教育研究所統括指導主事・部長、
公立学校校長、東京都教職員研修センター
教育経営課教授を歴任。法政大学理工学部・
生命科学部兼任講師としても10年間勤務。

今月の学習の
ポイント

キャリア教育の充実

中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（平成23年1月）によると、若者の現状に基づく主なものとして、次のような課題を挙げています。

・15歳から24歳までの完全失業率は、約9.1%、非正規雇用者の占める割合は約32%であるなど、若者の学校から社会・職業への移行が円滑に行われていない状況がある。その原因の背景には、学校教育が抱える問題に止まらず、産業構造の変化、就業構造の変化等、社会全体を通じた構造的な問題が指摘されている。

・子どもたちが将来就きたい仕事や自分の将来のために学習を行う意識が国際的にみて低く、働くことへの不安を抱えたまま職業に就き、適応に難しさを感じている状況があるなど、学校教育における職業に関する教育に課題が見られる。

・子ども・若者の変化として、職業人としての基本的な能力の低下や職業意識・職業観の未熟さ、身体的成熟傾向にもかかわらず精神的・社会的自立が遅れる傾向等、発達上の課題も指摘されている。若者の社会的・職業的自立や、学校から社会・職業への円滑な移行に向けた支援は、関係機関が連携して取り組むことが必要であり、

その中で、学校が果たす役割が重要である。

これら喫緊の課題から学校としての計画的、組織的な取組が求められているといえます。

また、前述の課題に対する方策の一つとして、「体験的な学習活動の効果的な活用」を示しております。

○子ども・若者に自らの将来を考えさせるためには、学校内における教育活動だけでなく、具体的に多様な年齢・立場の人や社会や職業にかかわる様々な現場を通して、自己と社会の双方についての多様な気づきや発見を経験させることが効果的である。このように、体験的な学習活動は、キャリア教育を推進する上で極めて重要な取組の一つである。

○例えば、中学校における職場体験活動や高等学校における就業体験活動を実施した結果からは、勤労観・職業観が芽生え、職業や働くことへの関心が高まったことや、前向きに自己の将来を設計することができること、自らの意志と責任による進路選択ができること、積極的に人間関係を形成しようとする雰囲気が高まったことなどの効果が挙げられている。

この例のように児童生徒に勤労観や職業観を育成することを目指すことが大切です。

●要項

- 横書き400字詰め原稿用紙2枚
- 封筒の表書きに「〇月号分」と明記
- 別紙に住所/氏名(ふりがな)/年齢/性別/職業(大学生の場合は大学名も)/志望県・志望校種・教科/電話番号/E-mailアドレスを明記

●テーマ・締切

6月号「学習意欲の向上」

子どもたちの学習意欲の向上が求められています。あなたはその背景を踏まえ、学習意欲を向上させるためにどのような指導を行いますか。具体的に述べなさい。

締切：3月13日(月)

●送付先

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-5 協同出版株式会社 「教職課程」論作文係

論作文
募集中!

7月号「いじめ防止の指導」

いじめが大きな問題となっています。いじめはどの学校にも起こり得ることを踏まえ、あなたは、いじめの防止やいじめ問題解決のために、どのような指導を行いますか。具体的に述べなさい。

締切：4月13日(木)